

# 年頭の御挨拶

辰巳会会長 鈴木治雄



度にしか思っていない人が、国を中心を占める人口配合になつて来たこと。

新年あけましておめでとうございます  
昨年は、何かと問題の多い年でした。今年こそは、何とか良い年であるようにと願っておりますが、戦後教育の弊害が如実に現われ、この10年間程は総てに期待できないものと思われます。

- ① 先ず国家という認識が薄いこと
- ② 責任感が無いこと
- ③ 自己主張が強く、権利、義務の割合が50%.. 50%でなければならないのが、80%.. 20%程

自己主張をすれば、世の中はぎすぎすして、世相は悪化するばかりでしよう。基本的な人間形成の教育が見直されるまでに約20年はかかると思われますが、それで少しは良い国になるのではないでしょうか。  
新年早々に悪いことを申しましたが、皆様も実感されておられるのではないでしようか。

当分の間は、自己防衛のほか方法がありません。  
どうか自重され、本年も健やかにお過ごし下さい。

## 全国大会報告

平成九年五月十五日(木)／於・神戸ポートピアホテル 聚景園

平成7年1月17日に発生した阪神淡路大震災の年の全国大会は、当神戸で開催され、会員の皆さんに災害を目の当たりに見ていただきましたが、今回も2年を経過した神戸の復興を再度見ていただきたく神戸で開催されました。

会場は、海側から中心街三宮方面が一望できる、神戸ポートピアホテルの最上部にある中華料理店「聚景園」でした。

大会は、横田幹事長の開会の辞に引き続き、鈴木会長があいさつされ、神戸復興のお話があり、加地彦太郎さんの发声で乾杯をして宴会に入りました。

宴半でスピーチを大谷一二さんがされ、さきの南米ペルー日本大使公邸の人質事件について、ご自身の南米滞在時代の体験話しがありました。  
又、小原多喜子さんは、栄町本店に勤めておられた頃のお家様、金子直吉翁、大御主人（岩治郎）、若御主人（岩蔵）様の想い出を話されました。



金子孝藏さんは得意の小唄で会場皆さんを楽しませてくれました。

時間も忘れるほどに歓談されましたが、終了時間を過ぎお開きの時刻となつて、藤田幹事の閉会の辞があり、次回の再会を楽しみにして解散となりました。

平成九年五月十五日(木)

於・神戸ポートピアホテル「聚景園」

司会進行役	柳田辰巳	本部幹事
横田幹事長	鈴木会長	松下幹事長
藤田幹事	以上	
一、開会の辭	一、閉會の辭	一、会長挨拶
宴		一、会務報告
一、乾杯	一、スピーチ	一、閉会の辭

弔辭 故植田三男氏

太陽鉱工株式会社会長 辰巳会会长 鈴木治雄

謹んで植田三男さんのご靈前に哀悼の辞を捧げます。

氣にならることを信じていましたのに、今ここであなた

の悲しみを、どう表わしていいのか私にはわかりません。

思えは私が日商の上海支店に入社しました時はあなたは応召さ

した。

年に監査役を退任するまで、お互

漢書卷一  
信義  
入孝  
行

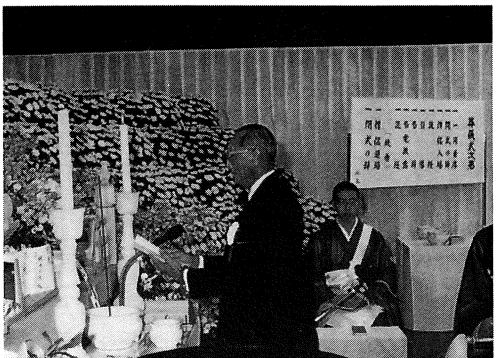
その後、あなたとの親交が深ま  
一 者  
一 開  
一 品  
一 信  
一 通  
一 事

事に専念し、あなたが昭和五十年

二ユーリヨリクに赴任されていた頃

からです。当社の主原料となるモ

する機会の多かつた私のために、色々お力添え下さいました。



休息のひとときを、ニューヨーク郊外のゴルフ場で共にゴルフを楽しみ、夜は日本料理の吉兆で食事をとり、楽しく歓談しましたことが、昨日の様に思い出されます。

また、あなたが日商岩井の社長の頃、当時の池田副社長と三人で、武藏カントリリーでゴルフをしました折のあなたの飘々としたプレーの中に、本当にゴルフを楽しんでおられた姿が目に浮かびます。

私が会長を勤めております辰巳会と、いう会があります。この会は神戸の鈴木商店が昭和の初めに終結した時、在籍されていましたOBの方々の希望で、元日商岩井故高畠誠一さんが中心となり、昭和三十五年に発足しました。

夜は日本料理の吉井で食事をとり、少し小酌して話したことだ  
昨日の様に思い出されます。

戸の鈴木商店が昭和の初めに絶縁した時 在籍されていましたCBの方々の希望で、元日商岩井故高畠誠一さんが中心となり、昭和三十五年に発足しました。

辰巳会の会員は、発足当時の方々の多くが他界されていき、年々減る中で、今は約五十名の方がご健在ですが、年令は最も若い方で八十九歳後半に達しています。会の運営は二世、三世に受け継がれていますが、この会の将来について、この秋にも相談したいと思っていたところ、あなたは急いで逝ってしまいました。

四二一

安東	井上好正	今村三郎	大谷一二	小野淳子	金子孝藏	釜崎とし子	北尾素子	木村毅	楠瀬治雄	鈴木正雄
高木邦子	高木邦子	石川幹恵	高畑薰幸	田代ヨン子	立花実	西川明子	岩崎由佐子	坂東みどり	藤田健作	松下重男
高木きぬ	高木きぬ	石川幹恵	高畑薰幸	田代ヨン子	立花実	西川明子	岩崎由佐子	坂東みどり	藤田健作	松下重男
柳田政江	柳田辰巳	柳田光子	横田周作	吉田春江	山室雅子	鷺尾千鶴子	川崎雅子	計三十六名		
森好子	森好子	柳田光子	横田周作	吉田春江	山室雅子	鷺尾千鶴子	川崎雅子			

将来を期し造船技術特に電気熔接技術研究に東大、阪大工学部教授陣の協力を得てその研究費をいとわず鋭意研鑽に徹した結果、一九二五年世界始めての電気熔接構造の大型タンカー日栄丸（一万三千重量噸）を完成し造船技術の歴史に大きな記録を成し遂げたのであります。そして此大型タンカー輸出ブームを迎え人々に吾が世の春を謳歌する好況期が続いた訳でありますがこの反動の谷は深く、好況の時流に拡張した設備其他の整備転換のため第一銀行融資を願い出た。現状の儘での単独融資は困難、親会社の神戸製鋼所と合併をと懇意されたので、播磨の六岡社長は急拵戸製鋼所の浅田社長を訪れ、この経緯を語り第一銀行の意向を話し復帰合併を依頼した。浅田社長は何の依存もなく快諾され、三十一年振りに親会社に復帰すると云うことに成ったのでありました。ところが其の二日後何の前振れもなく神戸製鋼所の市川専務、曾我野常務、湊取締役何れも経理担当役員の三名が播磨の東京本社にやつて来て「先日浅田社長が一応受諾した合併の件、当方常務会で協議の結果残念乍ら否決されましたので悪しからず」と云う口上なんです。仮初めにも一社の社長と社長が会談して成約した大きな問題をこの様なことで、親会社が子会社を見放すとは……。前社長田宮嘉衛門さんが御存命だつたらこんな始末にはならなかつたことと痛感したことであります。鈴木傳統の歴史から憶うと真當に取り返しのつかない残念なこと、店舗は皆わが家族と云う、われ朝食は会社に来てから一緒に攝り、還暦まで勤めたものには家紋のついた紋付を下さると云つたお家はんの温い心遣いで培かわされて来た末裔がこんな悲運を蒙るとは。

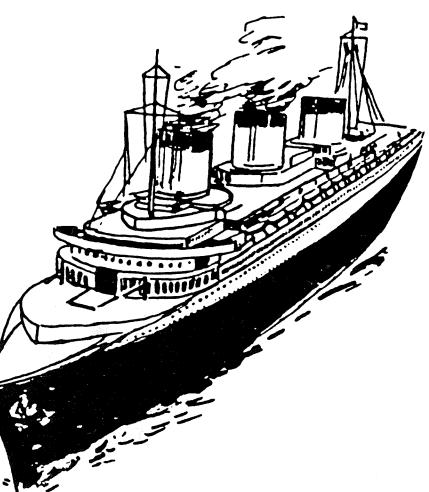
第一銀行の酒井頭取は御自身で石川島造船の土光社長に斡旋下され、早速両社経理担当役員と帶同部員で双方の資産及経理内容全般の審査市川専務、曾我野常務、湊取締役何れも経理担当役員の三名が播磨の東京本社にやつて来て「先日浅田社長が一応受諾した合併の件、当方常務会で協議の結果残念乍ら否決されましたので悪しからず」と云う口上なんです。仮初めにも一社の社長と社長が会談して成約した大きな問題をこの様なことで、親会社が子会社を見放すとは……。前社長田宮嘉衛門さんが御存命だつたらこんな始末にはならなかつたことと痛感したことであります。鈴木傳統の歴史から憶うと真當に取り返しのつかない残念なこと、店舗は皆わが家族と云う、われ朝食は会社に来てから一緒に攝り、還暦まで勤めたものには家紋のついた紋付を下さると云つたお家はんの温い心遣いで培かわされて来た末裔がこんな悲運を蒙るとは。

第一銀行の酒井頭取は御自身で石川島造船の土光社長に斡旋下され、早速両社経理担当役員と帶同部員で双方の資産及経理内容全般の審査市川専務、曾我野常務、湊取締役何れも経理担当役員の三名が播磨の東京本社にやつて来て「先日浅田社長が一応受諾した合併の件、当方常務会で協議の結果残念乍ら否決されましたので悪しからず」と云う口上なんです。仮初めにも一社の社長と社長が会談して成約した大きな問題をこの様なことで、親会社が子会社を見放すとは……。前社長田宮嘉衛門さんが御存命だつたらこんな始末にはならなかつたことと痛感したことであります。鈴木傳統の歴史から憶うと真當に取り返しのつかない残念なこと、店舗は皆わが家族と云う、われ朝食は会社に来てから一緒に攝り、還暦まで勤めたものには家紋のついた紋付を下さると云つたお家はんの温い心遣いで培かわされて来た末裔がこんな悲運を蒙るとは。

其二年後一九六二年世界海運好況の波にのり（株）石川島播磨重工業の相生工場は一九六四年迄連続三ヶ年進水総噸世界一と云う大記録を残す偉業を為し会社業績飛躍に大いに寄与したのであります。この相生工場の煉瓦建倉庫の壁高く昔ながらの米マークの家紋が残つて居るのでですが此米マークを眺めて來た。

昔ばなしに花を裂かせているという現状であります。

昔ばなしに花を裂かせているという現状であります。



## 辰巳より 会見

### 本部新年例会報告

平成九年度 辰巳会

新年例会出席者名簿

平成九年一月十六日(木)

於・神戸「第一樓」

(敬称略)

高 鈴	木	北 東	金 金	安 安
畑 木	保 村	尾 條	條 子	井 上
薰 治	カ 素	佳 貞	晶 孝	野 好
幸 明	雄 ヨ	ヨ 賢	子 正	岩 浄
川 金	横 柳	柳 森	峻 藏	坂 岩
計 二十八名	野 周	田 政	辰 光	田 正
	和 周	田 政	好 重	田 健
	よしこ	江 田	重 健	藤 みどり
	雅 子	子 己	作 重	玉 枝
	夫 夫	子 男	作 健	枝 由佳子

### 本部 秋季例会

平成九年十一月十八日(火)  
宝塚ワシントンホテル『島屋』で

懇親会と宝塚歌劇の観劇

今回の懇親会の会場は、阪急電鉄宝塚駅前にある、旧宝塚温泉の旅館島家が都市開発によりホテルとなつた場所で開かれました。

正午に二十名の出席者のもと開催され、鈴木会長より「東京支部長の植田三男様が御亡くなりになり、会員数が減る中皆様にはご健

康に留意されて生活を楽しんで頂きたい。また会員の方々のお歳を考えて今回のような催しにしました」とのご挨拶がありました。次に松下幹事より観劇に関する説明があり、引き続いて木下清三郎様のご挨拶とご発声で乾杯して宴会に入りました。料理はミニ会席を開み、歓談の花が咲きました。誠に楽しい一刻を会話で盛り上げたのですが、劇場へ移動する為午後二時過ぎにお開きにしました。

兵庫県南部地震後きれいに復旧・改装された宝塚大劇場へと向いました。途中井上好正様が転倒され、大事を取つて帰宅されました。が、その後の御連絡で心配には及ばぬとのこと、蛇足乍ら報告しておきます。

当日の演目は、星組の『ダル・レークの恋』で、小野晶子様のご好意により、二階正面最前列寄りという最上の席で、殆どの方が約三時間楽しられ、午後六時三十分散会しました。



辰巳会本部秋季例会出席者

平成九年十一月十八日(火)

於・宝塚ワシントンホテル『島屋』

(五十音順・敬称略)

坂 鈴	木	小 鶴	大 井	安 安
東 木	下 野	崎 谷	上 東	安 安
みどり	清 仁	晶 淑	好 恒	井 上
川 金	山 河	柳 淑	正 恒	木 野
崎 雅	鶴 尾	柳 淑	子 正	金 芳
和 和	千 鶴 子	森 田	松 仁	和 秀
夫 夫	子 子	辰 好	藤 田	子 光



が群がつて悠々と泳いで居り、水面は今季如何にも涼しそうな風情を一層深めて呉れる。

・水涼し 緋鯉真鯉と 浮き変り

蓄橋

この様な環境の六千坪の庭園には、格調高い和風建築が三十余棟の離れ家様式で建てられて居る。その中でも合掌造りと加賀前田候の茶室は有名であるとか。

案内される我々の離れ家迄、庭園の路地を歩いていると、まるで神戸の布引の溪流とか京の清滝川の溪流に沿つて散策して居る様で、都塵より離れて清々しい気持がする。

案内された辰巳会指定の客室には、広い床の間に優雅な掛軸が掛けられ、縁側越しには庭園のしつとりとした緑が一杯に広がる景観を眺められ、我々を持て成しているかの様である。

・しつとりと 緑滴る

たたずまい 三郎

部屋の中央にはテーブル風のミニ開炉裡が用意され、その中の灰の色は白く、恰も京、龍安寺の石庭

の様に綺麗に掃き整えられている。

皆さん方、宴席に着席されホッとした気分になられ、ゆつたりと寛がれる。

間もなく恒例の芦原幹事さんが司会の挨拶をされ、植田支部長は所要欠席の為、池谷政雄幹事さんより「辰巳会の会員の皆さん方は大変お元気で、又、非常に楽しい世界最高の会合であり、皆さん方健康に留意されて次回にもぜひお元気で集まりましょう」とのござ旨の力強いご挨拶がありました。

続いて、遠く函館よりご出席下さいました長老の加地彦太郎様の音頭で、竹酒（青竹の筒に入れられた生酒）で乾杯の後、さっぱりとしたあまごの南蛮漬の付出し、ところける様なかも茄子の田楽のお通し、甘い車海老のおどり等を味わいながら、青竹の馨しい香りと生酒のまるやかさとが相俟て、うつとりと陶然となる。

・青竹の 生酒旨し 辰巳会

三郎

斯ぐする内に、高熱に白熱化され

・宴、酣となり、あちら、こちら

限りであります。特に左利きの方

は竹酒、熱燗、ビールとで最高の

至福でしょう。

囲炉裡を囲み、お酒を酌交し、高

とフオークでお行儀良く頂戴する。

夕レを着けて、大きいのでナイフ

とフォークでお行儀良く頂戴する。

食欲をそそる。程良く焼けたのを

示される。香ばしい煙の香が快く

速、池谷さんが手際良くお手本を

元気で集まりました。

続いて、遠く函館よりご出席下さ

いました長老の加地彦太郎様の音

頭で、竹酒（青竹の筒に入れられ

た生酒）で乾杯の後、さっぱりと

したあまごの南蛮漬の付出し、と

ろける様なかも茄子の田楽のお通

し、甘い車海老のおどり等を味わ

いながら、青竹の馨しい香りと生

酒のまるやかさとが相俟て、うつ

とりと陶然となる。

・青竹の 生酒旨し 辰巳会

三郎

斯ぐする内に、高熱に白熱化さ

れた備長炭が囲炉裡に運ばれ、金

色に磨上げられた五徳状の網焼が

セットされ誠に気持が良い。いよ

いよ本日のメインの薩摩地鶏炭火

られた串に通されているボリュームたっぷりの上質のもも肉を、各

自、炭火で焼かれるのである。早

速、池谷さんが手際良くお手本を

元気で集まりました。

続いて、遠く函館よりご出席下さ

いました長老の加地彦太郎様の音

頭で、竹酒（青竹の筒に入れられ

た生酒）で乾杯の後、さっぱりと

したあまごの南蛮漬の付出し、と

ろける様なかも茄子の田楽のお通

し、甘い車海老のおどり等を味わ

いながら、青竹の馨しい香りと生

酒のまるやかさとが相俟て、うつ

とりと陶然となる。

・青竹の 生酒旨し 辰巳会

三郎

斯ぐする内に、高熱に白熱化さ

れの備長炭が囲炉裡に運ばれ、金

色に磨上げられた五徳状の網焼が

セットされ誠に気持が良い。いよ

いよ本日のメインの薩摩地鶏炭火

られた串に通されているボリュームたっぷりの上質のもも肉を、各

セッションとなり、本日の有意義なスケジュールを熟しましたが、今日は一杯の自然に包まれて、心身共にリフレッシュされ、何から今までお世話して下さった幹事さんより、ご丁寧な奥高尾の銘菓を戴き、皆さん方感謝の気持が一杯で、名残を惜しみつつ次の例会に元気でお目につかりました。ご再会を約され家路につかれました。本日は有難うございました。

・鮮やかな 緑亦良し 高尾山 三郎

（S・I記）

・奥高尾「うかい鳥山 地鶏炭火焼会食」

（五十音順・敬称略）

芦原 有一 田代 ヨシ子  
安東 長 橋 满寿子  
谷建 花也 實  
政雄 清也  
池田 明子  
吉田 满子  
宗西 橋忠男  
吉田 忠男  
吉田 满子  
立花 實  
立花 � 實  
立花 � 實  
立花 � 實  
立花 實  
立花 實  
立花 實  
立花 實  
立花 � 實  
立花 � 實  
立花 � 實  
立花 � � 實  
立花 � � � 實  
立花 � � � � � 實  
立花